

〔百品考〕^上西蕃蓮 和名トケイサウ。

雲間潘穉峯百花詩錄註西蕃蓮出廣中盆架引蔓葉尖長叢茂六月開花至十月止下蒂分十大白瓣中起臺有碧翠色花如細絲刷就者盛心五瓣如西瓜小子大瓣上白鑲邊中滿黃色瓣如綴以手指撥之似乎不牢著而旋轉活動仍不落五瓣心中另抽一黑莖莖末分三枝枝末如圓珠而光禿又彎下人見之俱不勝驚喜眞花之功而奇者肥土扞種

蔓草ナリ花戸ニ多ク栽ウ葉ニ岐アリテ械葉ノ如シ葉傍ニ細鬚アリテ物ヲ纏フ夏月花ヲ開

ク鐵線蓮ニ似テ大ナリ狀チ自鳴鐘ノ車ニ類セリ故ニトケイサウト云

〔地錦抄附録一〕時計草 長崎にてぼろんといふ

草はかづらのごとくにてかづらにあらす葉の間々よりほそきつる出て竹木に取つきてのぼる枝多くしげり葉に切込ありてもみぢ葉のごとく花形てつせん風車に似て輪の大きさてつせんのごとく色白く櫻色にうるみあり花の内に留りこん色と白色と紫色と三段ほどに染たる糸しべちやせんのごとくに立ならびて花十分に開く時そのしべ花の内へまはり敷て三段ほどの色かはり虹の吹たるがごとく見事に眞中よりしん立てゆりのしべのごとくなるもの五本五方へわかれそのさきに三分ほどの物横に付く上の方青茶色下の方うこん色その上に丸き玉あり青し玉の上に黒紫色のしべ三本三方へわかれそのさき丁子頭なり朝四つ過に花開き暮六つどきしほむその次のつほみ又明日開く花は一日なれ共葉の間々ことにつほみ多くつくものさかり久し五月上旬比より咲く又秋のころもさく秋咲は二三日も花しほまず有り花ひらく時の様子傀儡を操がごとく回るまへあり鬘薬も有り上下へかへる薬も有りさまざまの品見物あり花開きていさぎよく水をそぐがごとくに露玉ありて總體うつくしく是を繪書ば畫工も筆をなやむべし享保八年に長崎より初て來る枝を切てさしてよくつく寒氣を